

リポジトリ論文要旨
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

専攻分野 顎口腔機能制御学分野	身分 大学院生	氏名 藤原 彩
論文題名 入院中の要介護高齢者の口腔内環境，栄養状態，日常生活動作が生命予後ならびに肺炎発症に及ぼす影響 - 32ヵ月間の前向きコホート研究による検討-		
論文内容の要旨 (400-800 字程度)		
I. 目的 32 ヲ月間の前向き追跡調査により要介護高齢者の生命予後 (死亡) ならびに肺炎発症に 関連する因子の解明を行った。		
II. 対象および方法 岡山県内の病院に入院中の全患者のうち，同意が得られ口腔内診査が可能な 65 歳以上 の全患者を対象とした。これら被験者に，調査開始時，14 ヲ月，32 ヲ月経過後に口腔内 診査，診療録調査を実施した。予測因子は，Charlson Comorbidity Index (CCI)，Barthel Index (BI)，Malnutrition Universal Screening Tool (MUST)，栄養摂取方法，現在歯数，口腔清 掃自立，口腔乾燥とした。アウトカムは，生命予後 (死亡) ならびに肺炎発症とし，予測 因子との関連を検討した (岡山大学大学院 疫学倫理審査委員会：#764，1167，1554)。		
III. 結果と考察 解析対象者は，46 名 (男/女：11/35 名，83.8±6.8 歳) であった。調査開始 32 ヲ月後には 24 名 (52.1%) が死亡し，34 名 (73.9%) が肺炎発症した。 主成分分析の結果，本研究の予測因子は 3 種類に分類され，第一主成分 (口腔清掃自立， BI，MUST，栄養摂取方法，口腔乾燥) 内の因子間には，全て有意な相関が認められた。 比例ハザード分析の結果，生命予後には低栄養状態，性差 (男性) が (HR：8.13，4.90， 95% CI：1.77-37.3，1.50-16.01，p=0.007，0.009)，肺炎発症には口腔清掃に介助を要する こと，性差 (男性) が有意な関連を示した (HR：8.97，4.58，95% CI：1.70-47.4，1.50-14.0， p=0.01，0.007)。第一主成分内の因子は互いに相関していることから，今回抽出されな かった因子も生命予後 (死亡) や肺炎発症に関して決して無視できない因子であると考えら れた。		